

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 2 1 回 相模原市地域交通活性化協議会		
事務局 (担当課)		まちづくり推進部 交通政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 9 (直通)		
開催日時		令和 7 年 7 月 1 日 (火) 1 5 時 0 0 分 ~ 1 7 時 0 0 分		
開催場所		相模原市民会館 3 階 第 1 大会議室		
出席者	委員	1 9 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	1 0 人 (交通政策課長、外 9 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 開会 2 協議事項 (1) 中山間地域における交通再編について (2) 相模原市総合都市交通計画の一部見直しについて 3 その他 4 閉会		

議 事 の 要 旨

1 開 会

2 協議事項

(1) 中山間地域における交通再編について

ア 乗合タクシー実証運行の開始について

協議事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(渡邊委員) 利用者に乗合タクシーの現在の走行位置を情報提供する仕組みも検討してみてはどうか。

(事務局) 実証実験を行う中で検討していく。

(石原委員) デマンド型の運行の場合、地域の外から来られる方が利用しにくいと考えられるが、情報発信はどのように行う予定か。

(事務局) 市民向けパンフレットの観光協会での配布や市ホームページでの公開など、実証実験の中で方法を検討する。

(小林委員) 中山間地域において将来診療所が廃止された際の別の診療所への移動手段についても検討する必要があるのではないか。

(事務局) 別の診療所への移動需要を見極めながら検討する。

(生田委員) 乗合タクシーの運行時間が現状の路線バスの運行時間よりも短縮された場合、通勤の方の移動手段がなくなってしまう懸念がある。

(事務局) 運行時間は交通事業者との調整となり、運行可能な時間が限られることはありうるが、しばらくは路線バスの運行が継続するため、乗合タクシーで十分に対応できるか否かを実証実験で見極めたうえで方策を検討する。

(橋山委員) 一般的にはデマンド型よりも定時定路線型のほうが時間がかかるが、資料では逆の説明がなされている。

(事務局) 今回の実証実験では、定時定路線形態では概ね国道をまっすぐに進む一方で、デマンド形態では路地に入り込む経路の停留所が追加となるため、走行時間が長くなる。

(岡村会長) 10月以降において既存のバス路線の休止、減便はどのタイミングで実施されるのか。

(事務局) バス路線の減便や休止は、実証実験ではなく交通事業者におけるダイヤ改正のタイミングに合わせて実施されるため、実証実験開始後3か月から半年程度時間をおいて実施されるものと考えている。

(岡村会長) 既存のバス路線がある中で運行すると、バスよりも高額な乗合タクシーは利用されず、実証実験から何も得られない恐れがある。

(事務局) 新しい仕組みに早く慣れていただくことと、運行範囲の拡大で想定どおりの配車が可能かを確認したい。

(岡村会長) 予約型随時運行であればそのような検証はできるであろうが、定時定路線型運行については実験の意義について引き続き検討が必要である。

(岡村会長) 新たに運行する杉・日連地区の便は相模湖駅まで運行するのか。

(事務局) 吉野・与瀬地区の運行範囲を拡大するものであり、相模湖駅へも運行することになるが、必ずしも杉・日連地区から相模湖駅へ直通するわけではない。具体的なダイヤについては次回の協議会でお示しする。

(小堤委員) 児童クラブのタクシー輸送や介護予防事業送迎けんこう号運行事業で使用している車両はいわゆる青ナンバーの車両か。

(事務局) 現行では青ナンバーの通常のタクシー車両を使用してる。

(結果) 運行エリア、路線、方式、概ねの時間帯について、出席委員の全会一致で同意。

イ 乗合タクシーの停留所新設・移設について

協議事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(渡邊委員) 吉野・与瀬地区は停留所を10箇所も新設することだが、現状は何箇所に設置しているのか。また、もともと運行していたルートを変更することになるのか。

(岡村会長) デマンド運行のため、ルートは設定していない。

(事務局) 現状は相模川の北側の吉野・与瀬地区に40箇所程度設置しているが、南側の杉・日連地区には停留所を設置していない。

(結果) 停留所14箇所の新設・移設について、出席委員の全会一致で同意。

ウ 路線バスの退出等意向申出について

報告事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(橋山委員) 1日3往復で運行回数が少なく、年間2000万円程度の赤字路線であるため廃止を申し出た。八王子市も了承済みである。

(事務局) 市内では3箇所の停留所が廃止となるが、近隣に存続する別の路線の停留所が存在する。

(2) 相模原市総合都市交通計画の一部見直しについて

協議事項について、資料に基づき事務局より説明を行った。

(渡邊委員) ボランティア輸送であるグリーンスローモビリティについて、運転者のアルコール検査や健康チェック、車両の点検はすべて地域が実施するのか。

(事務局) 小さな交通は地域主体の取組を市が支援するものであり、原則としてすべて地域で実施することとなるが、グリーンスローモビリティについては比較的事故が起きにくいことから、市が車両を所有して地域に提供しており、法定点検や自動車保険は市で対応している。

(生田委員) 生活交通維持確保路線の運行継続の判断フローについて、公費負担をしても運転士不足により路線が撤退する実態と整合性がないため、見直しが必要ではないか。また、課題となっている運転士不足についての対策は。

(事務局) 判断フローについては実態と整合がとれるよう文言の修正を行う。運転士不足対策については、実現化方策の中に職業相談窓口との連携等を追加した。

(小堤委員) 2030年に30%の運転士不足の見通しは、何も対策を行わなかった場合のものであり、バス協会としても労働条件の改善や完全キャッシュレスバスや自動運転の検討などさまざまな取組を行っている。

(岡村会長) 生活不便の解消に向けた移動手段の確保策については、道路運送法に規定する登録・許可の要・不要で整理するとよい。

(結果) 計画の章立てや大枠について、出席委員の全会一致で同意。

3 その他

事務局より次回以降の協議会開催スケジュールについて報告した。

4 閉会

以 上

相模原市地域交通活性化協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	岡村 敏之	東洋大学 国際学部 国際地域学科 教授		出席
2	梶田 佳孝	東海大学 建築都市学部 土木工学科 教授		欠席
3	小堤 健司	一般社団法人神奈川県バス協会 常務理事		出席
4	大畠 雄作	一般社団法人神奈川県タクシー協会 相模支部 常任理事		出席
5	吉田 忠司	東日本旅客鉄道株式会社横浜支社 企画総務部 企画部長	代理出席 企画総務部 経営戦略ユニット 担当課長 若村 耕平	出席
6	宇野 弘之	東日本旅客鉄道株式会社八王子支社 企画部長		欠席
7	宮原 賢一	小田急電鉄株式会社 交通サービス事業本部 交通企画部 部長		欠席
8	濁澤 雅	京王電鉄株式会社 鉄道事業本部 計画管理部 計画担当 課長	代理出席 主任事務員 野村 圭佑	出席
9	橋山 英人	神奈川中央交通株式会社 運輸計画部 計画担当 課長		出席
10	三浦 裕介	京王電鉄バス株式会社 運輸営業部 乗合事業担当 課長	代理出席 課長補佐 白岩 俊行	出席
11	米山 淳	富士急バス株式会社 業務部次長		欠席
12	青山 琢人	国土交通省関東地方整備局 建政部 都市整備課長		出席
13	宮本 雄一	国土交通省関東地方整備局 相武国道事務所長	代理出席 交通対策課長 堀口 貞浩	出席
14	加納 光博	国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局 首席運輸企画専門官(総務企画担当)		出席
15	馬場 広人	神奈川県警察本部 交通部交通規制課 都市交通対策室長		欠席

16	廣野 修一	神奈川県 県土整備局 都市部 交通政策課 副課長	代理出席 副技幹 臼井 正治	出席
17	高橋 和彦	神奈川県交通運輸産業労働組合協議会 事務局次長		出席
18	宮野 善三郎	相模原市自治会連合会 副会長		欠席
19	布施 昭愛	相模原商工会議所 理事 事務局長		出席
20	小林 輝明	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会 常務理事		出席
21	石原 朗	公益社団法人相模原市観光協会 専務理事		出席
22	生田 修	公募市民		出席
23	渡邊 亨	公募市民		出席
24	杉浦 篤	相模原市 都市建設局 土木部長		出席
25	廣田 信之	相模原市 都市建設局 まちづくり推進部長		出席